

自然環境保全部活動報告書

活動日	2025/8/21	天候	晴れ	活動時間	9:00～12:00
メンバー	富田 健斗,オメラ都			報告者	富田健斗
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
時間	場所	活動内容			
9:30～12:00	田無神社龍神池	【作業内容】 ・龍神池の写真撮影 ・生物調査 ・外来種の駆除 ・池内の枯葉の除去 ・植栽木の枯葉の除去 ・藻の除去			
		【生物調査の詳細】 ・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施した。 ・大小様々な大きさのモツゴが確認された。 ・深場でヒメタニシが複数個体確認された。 ・過年度から継続して確認されているモノアラガイ科の一種が多数確認された。意図的に導入はしておらず、外部形態から外来系統と思われるため、駆除を実施した。 ・水面上でコセアカアメンボの成虫および幼虫を確認した。 ・水面上で多数のケシカタビロアメンボを確認した。 ・深場の脇で吸水しているミツバチ科の一種を確認した。 ・飛翔するシオカラトンボの成虫と池内で多数のヤゴを確認した。 ・稲にはシオカラトンボ属の一種の羽化殻を複数確認した。 ・コムラサキの上でネコハエトリを確認した。 ・過年度から継続して発芽している外来種のメリケンガヤツリを今回も確認したため、抜根を行った。 ・浅場にて多数のコナギを確認した。 ・深場にて多数のアイノコイトモを確認した。複数の花芽も確認することができた。 ・浅場にて多数のウキクサを確認した。 ・外来種のダンドボロギク、メリケンカルカヤ、アメリカタカサブロウを確認したため、それぞれ抜根を行った。			
		【ビオトープの管理作業】 ・深場や滝の周辺では多数の藻類が発生していたため、除去を行った。 ・落葉が溜まっている橋付近でヘドロの除去を行った。 ・植栽木の剪定および繁茂したミゾソバの除草を行った。 ・外来種の抜根作業を行った。			
		【その他】 特になし			



No.1

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業前のビオトープ全体の様子。



No.2

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業前の浅場の様子。



No.3

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業前の深場の様子。高温のためか藻がかなり発生していた。



No.4

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業前の滝の様子。藻類が大量に付着していた。



No.5

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業前の深場の様子。上記と同様に藻類が発生している。



No.6

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場にて大小様々な個体を確認した。



No.7

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場で複数個体確認されたヒメタニシ。



No.8

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場や滝付近で多数確認されたモノアラガイ科の一種。形態から外来系統と思われるため、駆除を行った。



No.9

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

水面上で確認されたコセアカアメンボ。



No.10

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

水面上で複数確認された
ケシカタビロアメンボ。



No.11

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場脇で吸水していたミツ
バチ科の一種。体色が明
るいためセイヨウミツバチと
推測されるが、正確な同定
は翅脈を確認しないと不
明。



No.12

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

稲にとまるシオカラトンボを
確認した。



No.13

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

浅場および深場で多数の
シオカラトンボ属のヤゴを
確認した。



No.14

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場で確認されたシオカラ
トンボのヤゴ。



No.15

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

浅場に植えられた稲上で
複数の羽化殻を確認した。



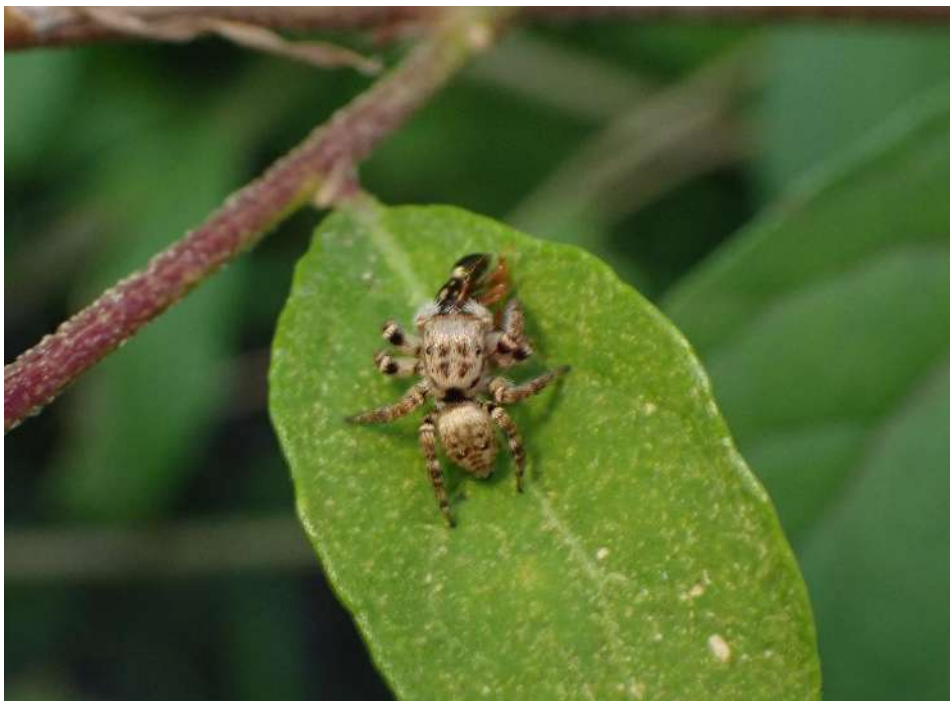
No.16

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場で確認したクロスジギンヤンマの若齢幼虫。春季は大小様々な個体が確認されたが、今回の調査で確認されたのは1個体のみであった。春季に確認された終齢個体については羽化したと思われる。



No.17

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

植栽のコムラサキの上で確認されたネコハエトリ。



No.18

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

ビオトープ脇で複数株確認されたメリケンガヤツリ。確認後、抜根作業を実施した。



No.19

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

メリケンガヤツリの抜根作業の様子。



No.20

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

浅場にて多数のコナギを確認した。昨年冬季に移植した土壤に埋土種子が混ざっていたと思われる。



No.21

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

深場で多数確認されたアイノコイトモ。複数の花芽が確認できた。



No.22

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

浅場で多数のウキクサを確認した。昨年はこれほど多数なかったため、埋土種子により発芽したと思われる。



No.23

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

ウキクサの根。葉体から複数本の根が出ているのでウキクサと同定した。



No.24

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

ビオトープ脇で確認されたアメリカタカサブロウ。確認後、抜根を行った。



No.25

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

ビオトープ脇で確認された
メリケンカルカヤ。確認後、
抜根を行った。



No.26

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

抜根および剪定した植物
体の様子。



No.27

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

剪定枝は入口脇に残置し
た。



No.28

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業後の全体の様子。



No.29

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

作業後の浅場の様子。



No.30

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

整備後の深場の様子。石像周りのミゾソバの選択的除草を実施した。



No.28

2025年8月21日

撮影場所:田無神社龍神池

解説

整備後の滝の様子。付着した藻類の除去を行った。

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注						
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年 夏季
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	CR			○	○		○			
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN				○					
	アカガエル類	－	放流							○				
	ヒキガエル類の幼生	－	放流							○	○			
	ニホンアマガエル	SR	導入		VU			○						
爬虫類	ヒバカリ	SR	自然		VU					△		△		
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN			○	○	－				
	品種メダカ	外	遺棄・放流			○				○				
	モツゴ	A	導入				深場にて大小様々な個体を確認した。				○	○	○	○
貝類	ヒメタニシ	A	導入				深場で複数個体確認した。	○	○	○	○	○	○	
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○						
	モノアラガイ科の一種	外	非意図的導入			○	浅場、淹付近で複数個体確認し、駆除を行った。				○	○	○	○
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○		○	○	○	○	○	○	
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				水面上で成虫および幼虫を確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○					
	ケシカタビロアメンボ						浅場・深場で複数個体確認した。							○
	ホルバートケシカタビロアメンボ	A	自然飛来						○		○	○	○	
	クサギカメムシ	A	自然飛来									○		
	チャバネアオカメムシ	A	自然飛来				コムラサキの上で幼虫を確認した。					○		○
	テントウムシ科の一種	B	自然飛来										○	
	ムーアシロホシテントウ	A	自然飛来									○		
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○			○		
	ナミテントウ	B	自然飛来						○			○		
	マメコガネ	B	自然飛来						○					
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○		○	○		
	ミツバチ科の一種	B	自然飛来				深場脇で複数個体が吸水していた。							○
	ヒメスズメバチ	A	自然飛来							○		○		
	ハムシドロバチの一種	B	自然飛来								○			
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来				深場で幼虫を確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○						
	クロイトトンボ	A	自然飛来					○	○	○	○	○	○	
	アジイトトンボ	A	自然飛来									○		
	イトンボ科の幼虫	A	自然飛来							○				
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来				飛翔する成虫を確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	シオカラトンボ	A	自然飛来				飛翔する成虫を確認した。		○	○	○	○	○	○
	トンボ科の幼虫	A	自然飛来				浅場および深場で多数のシオカラトンボ属の幼虫を確認。羽化殻を複数確認した。		○	○	○	○	○	○
	イチモンジセセリ	A	自然飛来							○		○		
	ヨスズノメイガ	B	自然飛来										○	
	ミギワバエ科の1種	A	自然飛来									○		
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○					
	トウキョウヒメハナムシ	A	自然飛来								○			
	カゲロウ目の一種	A	自然飛来										○	
	コカゲロウ属の一種	B	自然飛来						○		○			
	ユスリカ科の一種	B	自然飛来						○	○	○	○		
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来					○	○	○	○	○		
その他動物	イシビル科の一種	B	非意図的導入						○	○	○	○		
	ネコハエトリ	B	自然飛来				コムラサキの植栽の上で確認した。							○
植物	メリケンガヤツリ	外	非意図的導入			○	深場脇で複数株確認。引き抜きを行った。			○	○	○	○	○
	アオスゲ	A	土壌由来？										○	
	セキショウ	A	導入				ビオトープ脇で確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	コナギ	A	導入				浅場にて多数の株を確認した。	○		○	○	○	○	○
	アイノコイトモ	SR or R	導入				深場で多数確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	ウキヤガラ	SR or R	導入		VU			○	○					
	ミゾソバ	A	導入				ビオトープ全体で確認した。	○	○	○	○	○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○						
	推定ミズハコベ	SR	発芽		EN(北多摩)							○		
	ウキクサ	B	土壌由来				浅場で多数確認した。	○	○	○	○			○
	シャジクモ	SR	発芽	VU	VU(本土部)			○	○	○	○	○	○	
	ヘビイチゴ	B	土壌由来						○	○	○	○		
	スズメノカタビラ	B	自然飛来										○	
	オオスズメノカタビラ	外	自然飛来			○							○	
	ダンドボロギク	外	自然飛来			○	ビオトープ脇で確認した。			○	○	○		○
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○	浅場脇で多数確認した。	○	○	○				○
	ハハコグサ	B	自然飛来										○	
	セイヨウタンポポ	外	自然飛来			○							○	
	アイオニタビラコ（交雑種）	B	自然飛来				ビオトープ脇で確認した。						○	○
	メリケンカルカヤ					○	ビオトープ脇で複数株確認。引き抜きを行った。							○
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○		○						

※確認記録 ○:調査で確認、△:聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ、アズマヒキガエル
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	ニホンアナグマ、アオダイショウ、ヤマトタムシ
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンブバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
OR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
OR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの